

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	生産システム工学特別実習
科目基礎情報					
科目番号	0074		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期 集中講座		週時間数		
教科書/教材	実習先で指示を仰ぐこと				
担当教員	宮崎 孝				
到達目標					
1. 企業などにおける将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 2. キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる 3. 企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1	キャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる	企業などにおける将来にわたるキャリアイメージを持てる	企業などにおける将来にわたるキャリアイメージを持ってない		
到達目標2	自身の能力を高めようとする姿勢をとることができる	自身の能力について考えることができる	自身の能力について考えることができない		
到達目標3	企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任が説明できる	企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任の例を挙げることができる	企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任の例を挙げることができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	【生産1年 前期 開講】 校外での実習を通して、技術者の実務、企業人として活躍するために自身に必要な能力、企業における社会的責任を実感する。 ※実務との関係 この科目は、実際の企業等の方が指導・担当する。				
授業の進め方・方法	特別実習のしおりに従い、実習機関を選び、校外での10日から20日の実習を行い、実習終了後に報告書の提出と実習報告についての口頭発表を行う。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間中は実習先の関係者に敬意を払うとともに、礼節に気をつけること ・海外語学研修の場合は、事前に専攻主任に申し出て指示を受けること ・体調不良等により、やむを得ず休む場合には必ず実習先の実習責任者へ連絡すること ・実習後半において報告書を作成し、実習責任者の検印を受けること ・実習終了の最終日に実習先の実習責任者から特別実習評定書を受け取ること 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習	実習テーマによる	
		2週	実習	実習テーマによる	
		3週	実習	実習テーマによる	
		4週	実習	実習テーマによる	
		5週	実習	実習テーマによる	
		6週	実習	実習テーマによる	
		7週	実習	実習テーマによる	
		8週	実習	実習テーマによる	
	2ndQ	9週	実習	実習テーマによる	
		10週	実習	実習テーマによる	
		11週	実習	実習テーマによる	
		12週	実習	実習テーマによる	
		13週	実習	実習テーマによる	
		14週	実習	実習テーマによる	
		15週	実習報告会	実習内容と得たものを説明できる	
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			

		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	専門的能力 の美質化	インターン シップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	5	前14	
			企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	5		
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	5		
			企業における社会的責任を理解できる。	5	前14	
			企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	5		
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	5		
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	5	前14	
			コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	5		
			実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	5		
		共同教育	共同教育	クライアント(企業及び社会)の要求に適合するシステムやプロセスを開発することができる。	5	
				企画立案から実行するまでのプロセスを持続可能性の実現性を配慮して実行することができる。	5	
				品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる。	5	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	5	
				地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	5	
				問題解決のために、最適なチームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる。	5	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。	5	
				技術者として、生きる喜びや誇りを実感し、知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践創造的な活動を楽しむことを理解できる。	5	
				技術者として、社会に対して有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できる。	5	
				企業人としても成長していく自分を意識し、継続的な自己研さんや学習が必要であることを理解できる。	5	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	40	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	30	0	40	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0